

議事録

第 0 3 回	
会 議	第 3 回田辺市デジタル田園都市総合戦略有識者会議
日 時	令和 7 年 1 月 6 日（月） 14 時 30 分～16 時
場 所	本庁 1 階 多目的ホール 1
出席本部員	藤田和史、多田稔子、坂本昇子、愛須敬子、田野清剛、眞砂佳明、橘智史、吉水智章、山口賢治、中辻雅也、岡野友一、後藤昇、山本真大、野村悠一郎、古久保宏幸、永井幸彦、馬場崎栄
欠席本部員	
事務局	【田辺市企画広報課】木村部長、竹本課長、水野参事、富田企画員、鈴木主査 【株式会社長大】葛原、西坂、野尻、深澤
議事次第・ 会議資料	1. 開 会 2. 議 事 （１）地方創生に関する国の動向について……………資料 1 （２）人口ビジョンについて ・ 田辺市人口ビジョン（案）…………… 資料 2 ・ 田辺市人口ビジョンの考え方…………… 資料 3 （３）第 3 期総合戦略について ・ 田辺市デジタル田園都市総合戦略（案）…………… 資料 4 3. その他 今後の予定 ・ 総合戦略策定の進め方（パブリックコメントなど）…………… 資料 5 4. 閉 会
議事次第・会議資料に基づき、第 3 回田辺市デジタル田園都市総合戦略有識者会議を行った。会議は藤田和史座長により進行された。	
議事 1. 地方創生に関する国の動向について ・ 2014 年 11 月にまち・ひと・しごと創生法が施行され、2019 年 12 月にまち・ひと・しごと創生総合戦略が決定された。その後、2022 年 12 月にデジタル田園都市国家構想総合戦略を決定している。 ・ 2024 年 12 月 24 日に「第 2 回 新しい地方経済・生活環境創生本部」が開催され、「地方創生 2.0」として基本的な考え方が示された。公開された資料中では、国民の価値観が多様化する中で、多様な地域コミュニティの存在こそが国民の多様な幸せを実現するとし、そのためには一人ひとりが自分の夢を目指し、楽しいと思える地方を“民”の力を生かして官民が連携して作り出していく必要があるとの内容が示された。 ・ 都市と地方という二項対立ではなく、都市に住む人も地方に住む人も相互につながり、高め合うことで全ての人の安全と安心を保障し、希望と幸せを実感する社会を実現する等の内容も併せて記載された。 ・ 具体的には、人口減少のペースについて緩やかに推移するとしても当面は生産年齢人口が減少	

議事録

第 03 回

し続けるという事態を正面から受け止めた上で、人口規模が縮小しても経済成長し、社会を機能させる適応策を講じていくことと、そのために、一極集中をさらに進めるような政策は見直し、地域の経済・社会、これらを支える人材の力を最大限に引き出す政策を強化するとともに、若者や女性にも選ばれる職場や暮らしを実現する政策の強化、都市と地方の新たな結びつきや人の往来を円滑化する政策の強化等に取り組むこととしている。

- ・ 地方創生の考え方の基本構想を5本柱とし、①安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生、②東京一極集中のリスクに対応した人や企業の地方分散、③付加価値創出型の新しい地方経済の創出、④デジタル・新技術の徹底活用、⑤「産官学金労言」の連携など国民的な機運の向上が示された。
- ・ 上記について、これまでの「デジタル田園都市国家構想総合戦略」の方向性が変わるものではないと考えられることから、このまま田辺市デジタル田園都市総合戦略（第3期総合戦略）の策定を進める考えである。

（説明：策定支援業者 株式会社社長大）

- ・ 質疑応答はなし。

2. 人口ビジョンについて

- ・ 人口ビジョンは、人口の現状を分析し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すものであり、総合戦略において効果的な施策を企画立案する上で重要な基礎となるものと位置付けている。
- ・ 策定に当たっては、国の長期ビジョンや和歌山県長期人口ビジョン、人口戦略会議が作成した人口ビジョン 2100 を勘案して策定する。対象期間は2020年から2065年までの45年間とする。
- ・ P2：総人口の推移として、2020年の人口が69,870人であり、5年前人口に対して93%で減少している。
- ・ P3：年齢3区分別人口の推移として、2020年の老年人口（65歳以上）割合は34%で増加している。老年人口と生産年齢人口（15～64歳）の割合では、高齢者一人に対して1.61で減少している。
- ・ P11：出生数、死亡数の推移として、2003年から出生数を死亡数が上回っており、現在も継続している。2022年は出生数391人、自然増減は-748人となっている。
- ・ P12：合計特殊出生率の推移について、本市は和歌山県や国よりも常に高い値で推移しており、2018～2022年は1.51となっている。
- ・ P13：転入者・転出者数の推移については、2013～2015年の本市への転入者数は減少傾向だったが、2017年に増加した。2021年に再度増加し現在は横ばいで推移しているが、転出者数が転入者数を上回る社会減が継続している。
- ・ P14：転入者・転出者の属性について、15～34歳が大きく社会減となっている。
- ・ P18：転入者の転入元・転出者の転出先について、上富田町と和歌山市が転入を転出が上回っている。
- ・ P19：移住の動向について、市移住相談窓口を通じた本市への移住者は増加が続いており、2021

議事録

第 03 回

年度には 52 世帯、89 人となっている。

- ・ P25 : 「(4)雇用・就労 ①事業所数、従業者数」について、事業所数、従業者数ともに減少傾向である。事業所数は 4,486 事業所に、従業者数は 29,913 人に減少している。
- ・ P27 : 産業分類別の就業者数の特化係数においては、本市の産業である「林業」、「農業」、「複合サービス事業」に特化していることが分かる。
- ・ P45 : 「(2) 推計結果 ①将来人口の推計結果」において、本市の人口は 2065 年に 29,807 人となる見込みであり、2020 年の 69,870 人と比べると約 57%減少する。
- ・ P46 : 2020 年の老年人口の割合は 34%であるが、2065 年には 51%まで上昇する見込み。また、2065 年の 75 歳以上人口の割合は 35%である。2045 年には高齢者一人に対して、生産年齢人口の割合が一人未満となっており、2020 年の生産年齢人口は 38,191 人であるが、2065 年には 12,585 人と約 33%に減少する見通しである。
- ・ P50 : 「人口の変化が地域の将来に与える影響」について、労働力不足、地域経済の縮小、生活環境の悪化、地域社会の維持、農地・林野の維持、国土の保全、教育環境、医療・福祉、地方行財政に影響を及ぼす可能性があることを記載している。
- ・ P52 : 本市における合計特殊出生率は 1.51 となっている。人口戦略会議による「人口ビジョン 2100」の考察では、2060 年までに 2.07 に到達する設定としている。自然増減の可能性では、今後、国が推進する結婚・出産・子育て支援策によって全国的に緩やかに出生率が改善していくとして期待できる。本市は国よりも合計特殊出生率が高い水準にあるため、本市は将来的に設定された人口置換水準の 2.07 になることも十分可能であると考えられる。
- ・ 「結婚・出産・子育てに関するアンケート調査」については、「教育費への支援」等、何らかの少子化対策に取り組むことで子供を持ちたいとする回答が多数見られ、今後、更に少子化対策を推進することで出生率の向上が期待できる。
- ・ P54～55 : 社会増減の可能性について、国が進める「地方移住の推進」や「企業の地方拠点強化」等を踏まえ、2025 年からの社会減が少しずつ解消する推計となっている。本市は、和歌山県内でも移住者数が多く、移住のポテンシャルが高い地域といえる。将来の社会増減については、和歌山県長期人口ビジョンの社会増減と同様になる可能性があると考えている。
- ・ P56 : 「将来人口の仮定分析」では、将来人口の推計を 4 つのパターンで示している。社人研の推計を適用したものがパターン 1。2020 年比の人口が 2065 年で 43%という推計。
- ・ パターン 2 は少子化対策のみを強化するというもの。自然増減は合計特殊出生率の設定を適用し、社会増減は社人研の推計を適用している。
- ・ パターン 3 は少子化対策と移住対策の双方を強化するというもの。自然増減は表 5 の合計特殊出生率 (2060 年に 2.07 に到達)、社会増減には今後 10 年ごとに 50%定率縮小とする和歌山県長期ビジョンの推計を適用している。
- ・ パターン 4 は少子化対策を強化し移住対策をより一層強化するというもの。社会増減では転入・転出者数が同数となり社会増減ゼロで推移すると仮定したものである。
- ・ P59 : 「目指すべき将来の方向」では、自然増減について、子供を産み育てやすい環境をより一

議事録

第 0 3 回

層充実させることで合計特殊出生率 2.07 を目指すこととしている。

- ・ また社会増減については、本市出身者のうち特に若年層の地元回帰を促す魅力的な仕事の創出、子育て支援の充実による子育て世代の転入促進と転出防止、移住希望者に対する I・J ターンの施策の充実を図ることで和歌山県長期人口ビジョンの考えで示された社会増減を目指していく考えである。
- ・ 2065 年における目標人口は、パターン 3 の少子化対策・移住対策の双方強化を目標として 35,559 人、2020 年比で 51%に設定している。
- ・ 現在の田辺市人口ビジョンは、合計特殊出生率を和歌山県人口ビジョンにおける平成 27 年の数字にやや上乗せして設定し、社会増減は同人口ビジョンの考え方を踏襲する考えである。ただし、現時点で国・県の新しいビジョンは示されていない状況であり、方向性は明記されても具体的な数値目標は当面示されていないと想定している。
- ・ 田辺市人口ビジョンの策定に当たっては、合計特殊出生率及び社会増減の数値を独自で設定する必要がある。合計特殊出生率の設定について、5 年前に策定した第 2 期総合戦略では、国・県の目標値よりも高い値で推移することを記載しているが、2018～2022 年の本市の合計特殊出生率は 1.51 となっている。現ビジョンとの乖離が大きく、また、急回復は非常に困難であるため見直しが必要である。
- ・ 将来的には人口戦略会議が策定した人口ビジョンにおいて、人口置換水準（自然増減がゼロとなる水準）となる「2.07」という合計特殊出生率を目指すことが望ましいと考えており、この数値を利用したい。社会増減については現在の和歌山県の人口ビジョンの考え方を引き続き踏襲することで、10 年間で社会減を 50%ずつ減らしていくこととしたい。

（説明：策定支援業者 株式会社長大）

- ・ 質疑応答はなし。

3. 第 3 期総合戦略について

- ・ デジタル田園都市国家構想の実現に重要な要素として①地方に仕事をつくる、②人の流れをつくる、③結婚・出産・子育ての希望を叶える、④魅力的な地域をつくる—という 4 つの類型に分類し、各取組を推進することとしている。
- ・ 観光 D X の分野では、シームレスに宿泊交通体験等の予約・決済が可能な地域サイトの構築、旅行者の移動・宿泊・購買データ等を用いたマーケティング、観光地経営の戦略策定等を例として示している。
- ・ 「新たな人の流れの創出・拡大」では、転出超過数を数値目標とし、R 5 年度に改定した 250 人という目標に対して 434 人となり、目標を達成できていない状況である。
- ・ 「新規就業者数 5 年間の累計」では、目標値 250 に対して R 5 年度までの 4 年間の実績が 68 であり到達していない。
- ・ 「結婚出産子育て支援」では、合計特殊出生率の 5 年間の平均について、目標値 1.85 に対して 1.51 となっている。出生者数は、5 年間の累計で 3000 という目標に対して R 2 ～R 5 までの 4 年間で 1,555 人となっている。

議事録

第 0 3 回

- ・ 「暮らし続けることのできるまちづくり」については、中心市街地に魅力があると思う市民の割合が目標 25%に対して 17.7%、山村地域の振興や活性化が図られていると思う市民の割合は目標 20%に対して 12.9%となっている。
- ・ 交流人口等の面では、2020 年から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大時に大きな打撃を受けたが、その後回復し、交流人口の拡大施策は一定の効果が表れていると考えられる。
- ・ P19：「第 3 期総合戦略の基本方針」では、国が示したデジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化し、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指すという考え方について、各基本目標における具体的な施策に反映し、推進する。(3)計画期間は、2025 年度から 2027 年度までの 3 年間とし、(4)第 3 期総合戦略でも S D G s と一体的に推進する。P22 から基本目標と基本的方向性について整理している。
- ・ 基本目標 1 の「新たな人の流れの創出拡大」について、重要目標達成指標として転出超過数を挙げており、R5 年度の実績 434 人に対し、目標を R9 年で 288 人と設定する。達成に向けた施策の基本的方向性として、豊かな自然環境での暮らしを求める人に対して住宅や仕事等の受入環境を充実させることで更なる移住定住を促進することを挙げている。また、市外に転出した本市出身者が、進学就職や結婚等の人生の転機において故郷に帰ろうと思える施策の充実を図る。
- ・ 世界遺産である熊野古道や扇ヶ浜海水浴場等をはじめとする本市が有する様々な地域資源を最大限に活用することにより観光産業の基盤を拡充し、本市と関わりを持つ交流人口の拡大を目指す旨を記載している。
- ・ 基本目標 2 「安定した仕事作り」では、重要目標達成指標を新規就業者数としている。R2 年～R5 年の実績は累計 6,568 人であり、R7～R9 の 3 年間の累計で目標を 87 人と設定する。農林水産業の生産基盤の強化や新たな販路開拓、消費拡大等を支援することで販売額を高める考えである。また、農林水産業の担い手確保に対する支援に取り組むとともに、I C T等を活用するなど、生産性向上に向けた取組を推進する。
- ・ 基本目標 3 「結婚・出産・子育て支援」においては、目標達成指標として合計特殊出生率と出生者数を設定している。合計特殊出生率は、H30～R4 の平均 1.51 という実績に対して R7～R9 の目標値を平均 1.54 とし、出生者数については、R2～5 の 4 年間の累計で 1,555 人という実績に対して R7～9 の 3 年間の目標を累計 1,274 人としている。結婚・妊娠・出産・子育てに係る切れ目のない支援を行うことにより、安心して子供を産み育てられる環境を創出する。小中学校における I C T活用教育を推進するなど、就学環境の充実を図るほか、子供の一時預かり、一人親世帯・小学生から高校生までの子育て世代に対する支援を充実させ経済的及び精神的な負担軽減を図る。
- ・ 基本目標 4 「暮らし続けたいまちの実現」では、重要目標達成指標として Well-being 指標を採用し、生活満足度の現在の平均値 6.3 という実績に対し、R9 年の目標を 6.5 に設定する。街中で実施される各種イベントに対する支援を行うとともに、街中に集積する公共施設での取組を充実させにぎわい創出と周遊促進を図るほか、就業機会や活躍の場の創出拡大を推進する。また、各種検診の受診率向上等による市民の健康作りを進めること、地域コミュニティを活性化

議事録

第 03 回

させること、山村地域の暮らしを守ること等を記載している。

- ・ P23：基本目標ごとの具体的な政策について整理している。24 ページ「1-1 ふるさと回帰、多様な移住の促進」の「働く場所の確保」では、地域おこし協力隊として、都市部の人材を地域活性化に取り組む団体等に派遣し、活動を支援するほか、任期終了後の隊員の就業や起業を促進し地域への定住定着を図ることを記載している。
- ・ P28：「1-3 地域と多様に関わる関係人口の創出拡大」では、大学等との連携強化として、高等教育機関及び関係者、企業との連携を強化することで、高校卒業後の進路選択においても市内に留まれる環境整備により若者の定住促進を図る。また、高等教育機関に集まる学生や関係者、企業との連携を強化し、多様な関係人口の創出拡大を目指すことを記載している。
- ・ 「2-1 農林水産業の稼ぐ力の強化」の「林業の振興」では、和歌山県森林クラウドシステムの活用により森林法に基づく申請等を可能にするなど、デジタル化を推進するとともに、森林管理や林業経営の省力化・効率化を進めることとしている。
- ・ また、「水産業の振興」では、漁業の生産性の向上を図るため、沿岸漁業における環境改善や漁業者の出漁を促進する取組を進めるとともに、天然資源依存型漁業からの転換を図るため養殖漁業等のスマート水産業も検討していくことを記載している。
- ・ P38：「3-3 子育て環境の充実」の「育児子育てへの支援」について、妊産婦と子供の健康データの記録や体重発育グラフの表示、予防接種のスケジュール等を管理するアプリの導入を国や県の動向を注視し検討していくことを記載している。
- ・ また、「教育への支援」の項目では、A I ドリル等児童や生徒それぞれの進捗度合いに応じた個別最適学習、オンライン学習の環境整備等、小中学校における I C T 環境の整備や教員の指導力強化により I C T 活用教育を推進することを挙げている。
- ・ P39：「就学後の子育て支援」では、子どもの医療費の助成により子育て世帯の負担を軽減することを記載している。
- ・ 「4-1 まちなかの魅力作り」の「まちなかのにぎわい創出」では、中心市街地における創業及び事業規模を拡大しようとする中小企業者を支援することにより、街中への事業者の集積を促進しにぎわいの創出、市街地の活性化を図ることを記載している。
- ・ P47：「4-5 公共インフラの効果的な活用」における「公共交通の利便性向上」の項目では、路線バス事業者と連携し、キャッシュレス決済の利用を可能とするシステムの整備により、バス利用者の利便性向上を図ること等を記載している。

(説明：策定支援業者 株式会社長大)

【質疑応答】

- ・ P29 ページ「1-3 地域と多様に関わる関係人口の創出・拡大」の KPI について、「田辺市大学連携地域づくり事業件数」の項目のみ実績がないが、新規の取組であるという理解でよいのか？【A 委員】
 - お見込みのとおりである。これまでは本項目の KPI として「大学との連携協定締結件数」を設定していたが、協定を結ぶことが目的ではないとの認識から、連携の結果どのような事業につながったのかということを明確にする方が望ましいと考え、KPI を事業件数に変

議事録

第 03 回

更した。【事務局】

- 大学連携に着目し、KPI を設定することは新しい取組であると考えている。就学のタイミングで市外へ出てしまった学生を呼び戻す施策とは別の取り組みになるのか？【A委員】
- 大学との連携で、より本市のことを知っていただき、また、大学のノウハウを本市の中で生かしていただくことを目的とした取組であると考えている。【事務局】
- 社会減の部分ではまだ打つ手はあると考えている。大学との連携により若い世代も含めて関係人口を増加させ、また、就学で市外に出た人を呼び戻せるような取組になるよう推進していただきたい。【A委員】

- ・ P31 林業に関する具体的な施策の記載について、国や県が推し進める事業・施策に対応する部分は重要であり、網羅されているという印象である。ただし、内容に物足りなさも感じる。林業に対する山主への意識付けや優良材を産出するような取組など、本市の基本的な考え方を示す本総合戦略では、この地域の特性や強みを生かす内容、“地域らしさ”に触れる内容も盛り込んでいただきたいと思っている。【B委員】
 - ご指摘のとおり P31 内に“田辺らしさ”がどのように盛り込めるかについて検討させていただく。P32 には主な取組を記載しているが、よりブラッシュアップさせた取組を進めたいと考えている。もう一度担当課と協議する。【事務局】
- ・ P35 企業立地の促進について、KPI の「企業立地促進奨励金指定事業所数」の実績が3事業所、今後の目標値が1事業所となっており、土地や物件の課題で誘致が難しいものと理解はしているが、環境整備によっては企業誘致も可能であると考えている。この分野についてどの程度力を入れて取り組むつもりであるのか、聞かせていただきたい。【C委員】
 - 場所的な課題や土地の価格、水、交通の便等を踏まえると、条件が整いにくい現状がある。どこまで良い条件を提示できるか分からないが、県とも連携し、企業に来ていただけるように取組を進めたいと考えている。【事務局】
- ・ 基本目標や基本方針にも盛り込まれているように、特に少子高齢化は誰もが関心を持つ問題であり、(対策には) お金が掛るといえる。結婚・出産・子育て支援に本市としても力を入れて支援していただきたいと思います。子育て支援等に力を入れている福井県へ視察に行った際には、知事や職員から、“(我々は子育て支援の取組において) 先進自治体である”という自信を感じた。本市もきちんと予算を付け、他の自治体のモデルになっていただきたい。【D委員】
- ・ また、現在、高齢者の問題に着目し事業計画の見直しを行っている。敬老事業における給付対象年齢を 80 歳に引き上げる提案をしているが、これが実現すれば予算に余剰分が生まれる。その余剰分を結婚・出産・子育て支援に活用することが望ましいと考えている。税金を使って取り組む事業にはもっと真剣にならなければならない。【D委員】
 - 人口減少の自然減については、ご意見のとおり産み・育てやすさを充実させることが重要であると考えている。一方、社会減については、18 歳から 24 歳の間に市外へ出ていってしまう若者にどう留まってもらうか、どのようにして戻ってきてもらうか、が主題になる

議事録

第 0 3 回

かと思う。この点は引き続き取組を進める。【事務局】

→ また、交流人口を拡大させることも定住人口の増加につながると考え、本市の強みである移住・定住施策を充実させていきたいと思う。また、観光需要が回復している状況も踏まえて、企業・大学とさらに連携し、田辺市というフィールドを教育の場として活用していただけるような取組を推進し、交流人口の増加にもつなげたいと考えている。【事務局】

- ・ “田辺らしさ”をもう少し意識した内容にカスタマイズできることが望ましいのではないかな。他の自治体の模範となるためには、通り一遍の内容ではなくむしろ攻めていて地域らしさを全面に押し出したような施策を強く打ち出す必要があるのではないかと考えている。【E委員】

4. 今後の予定

- ・ 人口ビジョンと第3期総合戦略の策定については素案ができた段階である。本日の意見等を踏まえてパブリックコメントを実施する。なお、本会議後、1月10日まで追加の意見等を受け付けさせていただく。
- ・ 1月20日～2月7日にパブリックコメントを実施し、市民の皆様の意見等を募集する予定である。広報誌やホームページへの掲載等を通じて市民に広く周知する。
- ・ 第4回有識者会議は2月に実施する予定である。開催日時は別途周知させていただく。2月の議事では、パブリックコメントの結果について報告するとともに、市民の意見をどのように反映させたのか等について説明させていただく想定である。

(説明：田辺市企画広報課)

- ・ 質問・意見特になし。

以上 (敬称略)